

青森県西目屋村

住所	〒036-1492 青森県中津軽郡西目屋村田代神田57
村長	桑田 豊昭
HP	http://www.nishimeya.jp/index.html
バイオマス産業都市選定年度	2017年度
バイオマス産業都市構想	https://www.jora.jp/wp-content/uploads/2021/02/4_nishimeya.pdf
担当部署	建設課
連絡先 TEL	0172-85-2802
連絡先 FAX	0172-85-3040





1 事業化プロジェクト一覧表

プロジェクト	名称	状況
プロジェクト1	地域熱供給システムプロジェクト（エコタウン）	実施中
プロジェクト2	地域熱供給システムプロジェクト（もりのいすみ）	実施中
プロジェクト3	薪製造プロジェクト	実施中
プロジェクト4	地域エネルギー供給システムプロジェクト（村内外施設）	実施中

2. 事業化プロジェクトの概要

プロジェクトNo.1		地域熱供給システムプロジェクト（エコタウン）
実施主体		西目屋村
使用する技術		道路融雪の管理
実施体制	プラントメーカー	ボイラーメーカー：株式会社タケザワ
	設計・施工業者	株式会社 工藤兼正建築設計・株式会社 前山組
概要	バイオマス原料	木材
	原料処理量(t/年)	136
	発熱量(MJ/年)	1,365,840



子育て定住エコタウン道路融雪プラント

主要設備	薪ボイラー（581kW×2基）蓄熱タンク（18t）
薪使用量	約300m ³ ／年 ※丸太換算体積
利用用途	ロードヒーティング（2,900m ² ）
竣工	2018年12月



融雪道路

プロジェクトNo.2		地域熱供給システムプロジェクト（もりのいずみ）
実施主体		西目屋村（一般社団法人ブナの里 白神公社）
HP		https://www.mori-no-izumi.com/
使用する技術		温泉施設へ薪ボイラーによる加温供給
実施体制	ボイラーメーカー	株式会社タケザワ
	設計・施工業者	株式会社森のエネルギー研究所
概要	バイオマス原料	木材
	利用量(t/年)	73
	発熱量(MJ/年)	735,840



薪ボイラー施設



薪ボイラー

プロジェクトNo.3		薪製造プロジェクト
実施主体		西目屋村(西目屋村薪エネルギー株式会社)
HP		https://meyamaki.com/company/
使用する技術		木質燃料（薪）の製造
実施体制	プラントメーカー	西目屋薪エネルギー株式会社
	設計・施工業者	西目屋薪エネルギー株式会社
概要	バイオマス原料	木材
	利用量(t/年)	270



自動薪割り機



薪集積場



薪製品保管庫

プロジェクトNo.4		地域熱供給システムプロジェクト（村内外施設）
実施主体		西目屋村(一般社団法人ブナの里 白神公社)
HP		https://www.kumagera.net/company/
使用する技術		温泉施設へ薪ボイラーによる給湯
概要	バイオマス原料	木材
	利用量(t/年)	6



温泉施設グリーンパーク もりのいずみ

(<https://www.mori-no-izumi.com/>より)

バイオマス事業の進捗状況

事業化プロジェクト名	計画との進捗比較※	進捗状況(具体的な記述)	達成率(5)
1. 地域熱供給システム プロジェクト（エコタウン）	A	2018年12月竣工	100
2. 地域熱供給システム プロジェクト（もりのいづみ）	A	2017年3月竣工	100
3. 薪製造プロジェクト	A	2017年開始	100
4. 地域熱供給システム プロジェクト（村内外施設）	D	未着手 インフラ整備から供給体制など、 供給先が拡大した場合の全体構想からキャッシュフローも含めた実施計画、更に協力体制の構築が必要なため。	0

※計画との進捗比較 A)計画以上に進捗している B)ほぼ計画通り C)計画より遅れている D)進んでいない

①イニシャルコスト(千円)

事業化プロジェクト名	1. 熱供給システムプロジェクト (エコタウン)	2.熱供給システムプロジェクト (もりのいづみ)
建設費・設備費等	312,000	44,000

②ランニングコスト(千円/年)

事業化プロジェクト名	1.熱供給システムプロジェクト (エコタウン)	2.熱供給システムプロジェクト (もりのいづみ)
人件費	1,411	
原料等購入費	3,388	1,829
ユーティリティ費	1,279	

成功要因・波及効果

①成功要因

プロジェクト名	成功要因
1.地域熱供給システムプロジェクト (エコタウン)	地域課題解決（人口減少対策）等と合わせた政策だった。

2.地域熱供給システムプロジェクト (もりのいづみ)	課題解決（温泉施設の経費削減）等と合わせた政策だった。
-------------------------------	-----------------------------

②波及効果（雇用増加、CO₂削減効果等）

事業化プロジェクト名	波及効果
1.地域熱供給システムプロジェクト (エコタウン)	人件費及び原木入による 地域還元年間：4,200千円程度
2.地域熱教官システムプロジェクト (もりのいづみ)	温泉施設の燃料費削減 年間：1,123千円程度

③停滞要因

事業化プロジェクト名	停滞要因
1. 热供給システムプロジェクト (村内外市施設)	需要先の確保。 インフラ整備から供給体制など、供給先が拡大した場合の全体構想からキャッシュフローも含めた実施計画、更に協力体制の構築が必要なため。

④運営上の課題

事業化プロジェクト名	運営上の課題
1. 热供給システムプロジェクト(村内外施設)	資金調達

⑤今後の展開

・再生可能エネルギー施策の位置付け
再生可能エネルギーの導入に関しては、村として一定の取組実績があるものの、近年は新たな事業展開に向けた検討は限定的となっている。
今後、民間主体の事業を進めるためにも、行政の関与や方向性の整理が重要な要素となる。

・木質燃料供給と事業展開の方向性

薪の製造・供給は一定規模に達しており、現行体制の中での供給拡大には制約がある。実施企業では、次の展開として木質チップ製造への取組が検討されている。需要拡大に向けては、村内に加え、周辺市町村との連携による導入先の検討が期待される。

脱炭素化の取組状況

計画名称等	策定年度
地方公共団体実行計画 (区域施策編)	令和6年3月 https://www.nishimeya.jp/sonseijoho/gyozaisei/872.html